東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008 年 7 月 18 日

存在論的証明

親愛なるムスリムの皆様。私達の崇高なる書物クルアーンは、「われは、わが印が真理であることが、かれらに明白になるまで、（遠い）空の彼方において、またかれら自身の中において（示す）。本当にあなたがたの主は、凡てのことの立証者であられる。そのことだけでも十分ではないか。」（フッスィラ章第５３節）と仰せられ、私達の自我の中にも論拠があることを示しています。

クルアーンが示しているこれらの論拠は、哲学では存在論的証明とも呼ばれるものです。これらは、衛星や望遠鏡、潜水艦などを用いず、また物理や化学、生物学等がここ数世紀の段階に達する以前に、ただ理性や知性の活動によって生み出されたものです。

親愛なるムスリムの皆様。アッラーの存在に関する、存在論的証明は、イスラームの哲学者ファーラービーによって次のように説かれています。「頭の中で、完全なる神の存在を考えている。完全であることの一つの特質は、実際にも存在することである。つまり、実際に存在しない何者かを完全なものということはできるだろうか？神であるこの完全なる存在は、実存しているのである。」ファーラービーによると、何らかの存在は、完全であるか、何かを必要としているかであり、三つ目の選択肢は考えられません。存在し得る状態である何らかの存在は、それが存在する為には、それ自体よりも以前から存在している何者かの要因を必要とするのです。これらの要因の鎖は、あるポイントで止まってしまいます。そのポイントが、存在が必要でありそれ自体によって存在しているお方、アッラーなのです。

親愛なるムスリムの皆様。私達の多くが、「私はどこから来たのか。」「私はなぜ存在するのか。」「私はどこに行くのか。」という問いへの答えを探し求めています。注意深く考えるなら、私達がこういった問いかけをする理由は、このような問いかけをするような形で私達が創造されていることなのです。創造主が私達にこのような問いを問いかけさせておられるのです。私達を、教えを信じるべき形で創造されたということは、「ある教えが私達に与えられるであろうこと」を意味するものです。なぜなら教え以外のどんなシステムもこれらの問いには応えられないからです。

私達に喉の渇きを与えられるアッラーは、そのかわりに水を見つけることのできる可能性と水をも創造されたのです。私達に空腹を与えられるアッラーは、無数の食物をも創造されたのです。注意して見るなら、喉の渇きや空腹と言った感覚は、外部に水や食べ物が存在することとは異なるものです。私達の生命は、水のかわりに、すなわち水素原子と酸素原子から成り立つ分子のかわりに、地球上に全く存在しない別の分子を必要とすることも可能性としてあり得たのです。しかしそうはなっていないのです。私達の体は、最も必要であり、そして存在しているものをその創造主から求めると言う形で創造されているのです。永遠に存在していること、無になってしまわないことは、水や食べ物よりももっと強く、私達が必要としているものです。生命の継続は、あらゆる希望や欲求よりも優先されるものです。つまりアッラーは、私達を、来世を必要とする形で創造されたのです。もしアッラーが与えることを望んでおられなかったとしたら、それは与えられなかったでしょう。創造主から私達に与えられたこの希望こそが、来世への一つの根拠なのです。

このように、私達の自我の中にも、アッラーの、教えの、そして来世の存在の論拠があるのです。これらの論拠を読み取れることができる人は、アッラーや教え、来世を信じるでしょう。